

大 阪 市 中 教 研 会 報

No. 148

編集者 大阪市立中学校教育研究会
発行人 大阪市立中学校教育研究会
会長 大 政 和 彦
発行所 大阪市立中学校教育研究会
大 阪 市 立 宮 原 中 学 校
TEL 06-6394-2455

令和 7 年度 研究テーマ

「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成」

～ ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力 ～



「質の高い探究的な学び」を実現するために

大阪市総合教育センター

所 長 富 山 富士子

大阪市立中学校教育研究会におかれましては、平素より、本市中学校教育の推進に多大なるご尽力を賜り誠にありがとうございます。

会員の先生方におかれましては、「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成 ～ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力～」のテーマのもと、各教科・領域等での理論構築と調査・研究や授業実践等の研究会諸活動に取り組まれ、本市中学校教育の充実・発展に大きな役割を果たしていただいております。これまでのご功績に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

さて、国におきましては、昨年 12 月に中央教育審議会への「諮問」がおこなわれ、次期学習指導要領に向けた検討が進められております。主な審議事項として次の 4 つの事項が示されています。

- 1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方
- 2 多様な子どもたちを包摂する柔軟な教育課程の在り方
- 3 各教科等やその目標・内容の在り方
- 4 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

この審議事項に基づき、中央教育審議会 教育課程企画特別部会には既に複数回開催されており、令和 7 年 5 月 22 日には、「質の高い探究的な学びの実現（情報活用能力との一体的な充実）」という論点で議論されました。

諮問文には、「質の高い探究的な学びを実現するための『総合的な学習の時間』の改善・充実の在り方をどのように考えるか。その際、情報活用能力の育成との一体的な充実や教科等横断的な学びの充実をどのように考えるか」等と示されています。子どもたちを取り巻くこれからの社会は、子どもたち自身が、自ら舵取りし、持続可能な社会の創り手となり、豊かな可能性を開花できるものでなければなりません。一方、子ども一人ひとりに目を向けた時に、社会参画の意識をもつこと、知識と現実の事象を関連付けて理解するこ

と、将来の夢をもつこと等に課題があることが指摘されています。

5 月 22 日の教育課程企画特別部会では、「探究的な学びに関わる成果と課題・検討の方向性」において、「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「自分で学び方を考え、工夫できる」等において、肯定的回答の割合が高い傾向にあるとの調査結果（令和 6 年度全国学力・学習状況調査）が示されるとともに、総合的な学習の時間を中核とした探究的な学びは、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む中で、自己の生き方や在り方を考えていくものであり、その充実は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の伸長のみならず、学びに向かう力・人間性等の涵養に大きな役割を果たす潜在性を有しているのではないかと示されています。

また、総合的な学習の時間を中核としつつ各教科等も含めた形で探究的な学びを一層重視するとともに、質の高い探究に不可欠な情報活用能力を一体的に向上させる方向での議論が進められていくことも示唆されております。

このようなことから、本研究会が取り組まれる研究テーマ「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成 ～ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力～」は、今この時代の教育課題に応えたものであり、たいへん意義深いものであるといえます。大阪市総合教育センターといたしましても、皆さまと連携させていただき、様々な角度から支援させていただきたいと思っております。

本研究会の長年にわたる研究や取組の成果を、子どもたちの思考や行動、好奇心を深めることに活かし、「自分自身が見つけた課題を周囲の人と協力して解決する授業」を実践していただけたらと思います。

最後になりましたが、大阪市立中学校教育研究会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、教員の研究活動を活性化する取組を通して、よりよい未来の創り手となる子どもたちの育成をお願いいたします。



持続可能な未来社会の創り手となるための資質・能力の育成

大阪市立中学校教育研究会

会 長 大 政 和 彦（宮原中学校）

大阪市立中学校教育研究会の会員のみなさまにおかれましては、平素より、本研究会にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

本研究会は創設から78年目となりました。これまでの多く諸先輩方がその時代の教育課題解決に向けて、大阪市の教育発展のため、教育実践や研究活動を行い、多くの研究成果を残されてきました。その活動に敬意を表するとともに、これらの伝統を途切れさせることなく継承し、教育の今日的課題を解決すべく活動していきます。さらに、これらの研究活動が充実・発展していくよう事業計画に基づき各事業の推進に尽力していきます。

そのためには、評議員の各教科領域の部長先生や各ブロック委員長、副委員長の先生をはじめ、各専門委員の先生方はもとより会員のみなさまのご協力が必要となります。これまで同様どうぞよろしくお願いいたします。

さらに、教育委員会、総合教育センター、校長会、教育に携わる関連団体との連携を深め、より一層、研究活動を推進していきたいと思っています。

さて、各校では、学習指導要領に基づく教育課程・指導計画の編成、評価の改善にも取り組まれていることと存じます。今年度も、本研究会では「学校のグランドデザイン」を基盤とする「カリキュラム・マネジメント」を通して、昨年同様、継続して『持続可能な未来社会の創り手となるための資質・能力の育成』を研究テーマとし、その実現に向けたキーワードを「ウェルビーイング」・「探究学習」・「総合的読解力」で事業を推進してまいります。

持続可能な社会の創り手の育成とウェルビーイングの向上は、文部科学省第4期教育振興基本計画のコン

セプトに示されています。今年度も研究テーマを継続することで、このテーマを踏まえた研究活動が、子どもたちの未来と幸福につながっていき、それによって、活力ある未来社会の実現と一人ひとりが主体的に地域や社会の幸せや豊かさを感じられる世界となっていくものだと信じております。

そして、日々の研究部の活動やブロック研究発表会、全市研究発表会をはじめ様々な研修や発表会など、より充実した研究活動を進めて、若手教員の研鑽の場としてだけではなく、学び続けるすべての教員が修養を積み、令和の日本型教育を担う教師として日々の教育実践に活かし、大阪市の教育活動の推進の一助となれどと考えております。

これまでも、コロナ禍を経て、各教科領域部長先生や各ブロック委員長の先生方のリードのもと、様々な工夫をしていただき、研究発表の形態、公開授業、研修会の開催をしていただきました。それらの活動は、教育実践として先進的かつ充実しておりました。中教研本部といたしましても、今年度も各研究部の深化・充実に向けて準備されている活動の予算面等でもできるかぎりご支援させていただき、会員の先生方の期待に少しでもこたえ、魅力ある研究組織になるよう努力したいと思っております。

現在、各学校現場で日々直面している学力・体力の向上、不登校対策、学習指導要領に基づく教育課程・指導計画の編成、評価の改善、働き方改革など多くの課題が山積しております。会員の先生方には、ぜひとも本研究会に参加していただき、互いの資質や指導力の向上に努めてこれらの課題の解決に向けていただきたいと願っております。

今後ともより一層のご理解とご協力そしてご鞭撻を心よりお願いいたします。

新 部 長 の あ い さ つ

社 会 部

「一人ひとりの未来につながる社会科の創造 ～問い・探究、そして参画へ～」

渡 辺 慶 人（八阪中学校）

今秋「第58回全国中学校社会科研究大会」「第31回近畿中学校社会科研究大会」が大阪で開催されます。これまで大阪が行ってきた研究を継承して、「一人ひとりの未来につながる社会科の創造 ～問い・探究、そして参画へ～」を大会主題としています。とくに「問い」「探究」の先に「参画」を据えて、他者との協働や合意形成、地域・社会への興味・関心、主権者意識等を高め、自分自身で未来を創りだせる子どもの育

成をめざしています。

全研究授業6本のうち地理的分野、歴史的分野、公民的分野でそれぞれ1本ずつ計3本の授業を大阪市が行います。大阪市を中心として大阪府、堺市が1つとなって歴史ある大阪の社会科教育の研究成果を全国に発信すべく、現在準備をしているところです。

今後とも社会部の活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

数 学 部

「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」

吉 次 憲 保（梅南中学校）

昨年度は、8月に「第106回 全国算数・数学教育研究（大阪）大会」が開催されました。全国各地から多くの先生方にきていただき、盛会のうちに終えることができました。大会では、大阪市から3本の報告発表があり、「生徒の思考を深める授業のあり方」や「ICT機器を効果的に活用した指導」「対話を重視した授業設計」など、これからの数学教育について、活発な議論と学びが展開されました。発表者だけでなく、発表に携わった多くの先生方の熱意が感じられる大会で

した。

この全国大会を通じて、「生徒の力を伸ばす授業とは」「主体的に学ぶ姿勢をどう育てるか」という原点に立ち返る機会になりました。

今年度も、大阪市の数学教育の充実と数学科教員の専門性向上をめざし、研究活動に励んでまいります。

今後とも、数学部の活動にご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

生活指導部

「多様な学びの場の実態と効果に関する研究」

～不登校生徒の学びを支える新たな選択肢の探求～

古 川 修（平野北中学校）

昨年度は皆様のおかげをもちまして第104回近畿中学校生徒指導研究協議会「大阪大会」を無事に終えることができました。大会に向けて研究を重ね、4名による実践報告をし、大きな成果をあげることができました。今後につきましても生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう研究してまいりたいと思います。

現在、大阪市のみならず全国では、喫緊の課題である不登校生徒に対する支援活動について、「生徒指導

提要第10章 不登校」にもあるように、生徒の教育を受ける機会の確保に関して様々な取り組みがなされているところです。生活指導部といたしましても、今後さらに複雑化・多様化する生徒の現状を把握し、個々の生徒の状況に応じた支援をどのように展開していけばよいか、どのように発展させていけばよいか研究活動を進めてまいりたいと考えています。引き続き、生活指導部の活動にご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

教育メディア部

「教育メディアの共存と融合」

～多様な学びを支えるメディア環境づくりに向けて～

西 堂 良 紀（住吉中学校）

現代の教育現場は、大きな転換期の中で学習活動が展開されています。紙の教科書や書籍、デジタルコンテンツ、そしてAI技術やオンライン学習環境の進展といった、多様なメディアが共存し、それぞれの強みをどう融合させていくかが、今後の鍵になると認識しています。

とりわけ、「図書と視聴覚の融合」は、私たちの部門にとって、極めて重要なテーマです。本の知性に、映像や音声の臨場感を加えることで、学びはさらに深

く、そして広がりを持つものとなります。それは、すべての生徒に新たな気づきと体験をもたらすものと確信しております。

今後は、「多様な学びを支えるメディア環境づくり」をキーワードに、コンテンツの質を向上させ、より開かれたメディアづくりをめざしてまいります。

今後とも教育メディア部の研究活動にご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本部だより

令和 7 年度 大阪市立中学校教育研究会全体会 5月21日(水) 大阪市総合教育センター 10階 研修室で実施しました。

研究主題

「持続可能な未来社会の創り手となる資質・能力の育成」
～ ウェルビーイング・探究学習・総合的読解力 ～

ブロック研究発表会 基準日 2・3ブロック 8月27日(水)
1・4ブロック 8月28日(木)
全 市 研 究 発 表 会 10月 8 日(水) 開催

《事業の種類》

- ① 学校のグランドデザインを基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進
- ② 研究部・ブロック委員会の研究活動の深化・充実
- ③ 全市研究発表会の推進と研究・研修活動の充実
- ④ 「中教研会報」・「研究の歩み」の内容の充実、研究活動の動向や成果の伝達
- ⑤ 教育委員会・総合教育センター・校長会・中学校教育研究会等、関係団体との連携

《当面の課題》

- ① 学習指導要領に基づく教育課程の編成と基礎学力の充実についての研究
- ② 総合的読解力育成（「小中学生からのリベラル・アーツ教育」）についての研究
- ③ ウェルビーイング、個別最適化学習・探究学習についての調査・研究
- ④ 資質・能力の向上を促す、指導・評価方法の工夫・改善についての研究
- ⑤ 教育 DX（デジタル・トランス・フォーメーション）にもとづく教育の推進
- ⑥ いじめ・いのちの教育、不登校、問題行動の研究
- ⑦ 各研究部・各ブロック・各学校における研究体制の整備
- ⑧ 小中が連携、一貫した教育についての研究
- ⑨ 課題に応じた研究部組織の改編・新設の検討
- ⑩ 各種研修・研究会への参加を通しての教職員の相互研鑽・課題解決
- ⑪ その他教育上の諸問題の研究

評議員会報告

第 1 回 5月21日(水) 14時～

於：大阪市総合教育センター 9 階研修室

- (1) 令和 6 年度 事業報告
- (2) 令和 6 年度 会計決算報告
令和 6 年度 会計監査報告
- (3) 令和 7 年度 事業計画並びに予算案 研究主題
- (4) 連絡事項
 - ① 役員選出について
 - ② 専門委員会での協議事項
 - ③ 今後の評議員会の日程について
 - ④ 会計関係について
 - ⑤ 会報、研究の歩みについて

第 2 回 6月11日(水) 16時～

於：大阪市総合教育センター 9 階研修室

- (1) 令和 7 年度 研究活動について
 - ・各ブロックの研究について
 - ・全市研究発表会について
 - ・研修会について
- (2) そ の 他
 - ① 令和 7 年度 役員・専門委員一覧表について
 - ② 部門別・ブロック別 研究主題・事業計画について
 - ③ 令和 6～8 年度 全国・近畿大会予定表について
 - ④ 連絡事項
 - ・令和 7 年度 予算について
 - ・総合教育センター直接執行分について
 - ・会費の徴収・納入事務について
 - ・ホームページの更新について

令和7年度 部門別研究主題

No.	部 門	研 究 主 題
1	国 語	「『生きる力』としての国語力の育成」 ～自分の思いや考えを深める言語活動の充実～
2	社 会	「一人ひとりの未来につながる社会科の創造」 ～問い・探究、そして参画へ～
3	数 学	「未来を創造する数学の主体的・対話的で深い学びをめざして」
4	理 科	「理科の見方・考え方を働かせて、未来を創造する資質・能力を育む理科教育」
5	音 楽	「音楽的な見方・考え方を働かせ、感性を育む音楽教育」 ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～
6	美 術	「造形的な視点を生かし、自分らしく学び続ける子どもたちを育成する」 ～ひらめきを未来につなげるために～
7	保 健 体 育	「異学年交流を通し学習意欲を引き出し学びの質を高める」 ～ハンドボールの指導方法の研究～
8	技術・家庭	「よりよい生活・社会を創造する技術・家庭科教育」 ～主体的に問題解決に取り組み、最適解を導き出す生徒の育成～
9	英 語	「4技能5領域の総合的な能力向上」 ～2025大阪万博でコミュニケーションが取れる生徒の育成をめざして～
10	道 徳	「多面的・多角的な視点で考え、議論する道徳教育の創造」 ～グループワークを取り入れ言語力を育てる道徳科授業づくり～
11	特 別 活 動	「生徒一人ひとりが主体的に生きる特別活動の創造」
12	生 活 指 導	「多様な学びの場の実態と効果に関する研究」 ～不登校生徒の学びを支える新たな選択肢の探求～
13	特別支援教育	「子どもたち一人一人が、共に学びに向かい 生きる力を育む教育をめざして」
14	保 健 養 護	「養護教諭の専門性と資質の向上をめざして」
15	教育メディア	「『生きる力』と『感動する心』をはぐくむ教育メディアの研究」 ～学校図書館教育、放送・視聴覚教育を通して～

令和7年度 ブロック別研究主題・発表会日程

ブロック	研 究 主 題	発表会日程
1 ブロック	「変化の時代をしなやかに生き抜く力の育成」 ～探求と共創で未来を拓く教育実践～	8月28日(木) 基準日
2 ブロック	「主体的で、協働的な学び手を育む教育の創造」 ～「つながり」を生かした学びの場を通して～	8月27日(水) 基準日
3 ブロック	「豊かな心の醸成と持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成」 ～新しい未来の姿を構想した実践交流～	8月27日(水) 基準日
4 ブロック	「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための資質・能力の育成」 ～全ての人の可能性を引き出す教育の創造～	8月28日(木) 基準日

令和 7 年度 役員・評議員

令和 7 年度、役員・評議員が下記のとおり決まりました。（敬称 略）

【大阪市教育委員会】

初等・中学校教育担当	総括指導主事	増田 洋 平
大阪市総合教育センター	指導主事	西垣 一 範

【本 部 役 員】

会 長	大 政 和 彦	（宮 原）
副 会 長	松 田 光 平	（豊 崎）
同	杉 山 邦 彦	（横 堤）
同	青 木 泰 侍	（大 桐）
書 記	小笠原 忠 承	（新 生 野）
会 計	石 田 かおり	（大正中央）
会 計 監 査	高 橋 章 二	（天 王 寺）
同	飯 山 将 臣	（東 淀）

【本部役割分担一覧】

● 全市研究発表会、 ブロック研究発表会の調整 等	（松 田）
● 企画立案、研究の歩み、会報の編集、 HP担当 等	（杉 山）
● 研修計画、教育課程（言語活動）、 小中一貫教育担当 等	（青 木）
● 名簿作成、議事録作成、 案内状発送、報告書作成 等	（小笠原）
● 会計、予算、事業報告書作成、 決算報告書作成 等	（石 田）
● 会計監査、会場準備、資料配布 等	（高橋・飯山）

【部 長】

1	国 語	堀 田 千 秋	（日 本 橋）
2	社 会	渡 辺 慶 人	（八 阪）
3	数 学	吉 次 憲 保	（梅 南）
4	理 科	谷 塚 高 雅	（加 美）
5	音 楽	安 藤 寛	（大 領）
6	美 術	石 川 文 子	（東 陽）
7	保健体育	阿久津 弘 治	（今 津）
8	技術・家庭	村 上 美津子	（城 東）
9	英 語	田野原 千 佳	（新 豊 崎）
10	道 徳	神 田 敏 生	（夕 陽 丘）
11	特別活動	進 藤 文 代	（墨 江 丘）
12	生活指導	古 川 修	（平 野 北）
13	特別支援教育	鹿 嶽 昌 彦	（弘 済）
14	保健養護	河 原 亜 紀	（加 美 南）
15	教育メディア	西 堂 良 紀	（住 吉）

【ブロック委員長・副委員長】

第1ブロック委員長	鍋 谷 賀都緒	（市 岡 東）
第1ブロック副委員長	京 田 哲 次	（新 東 淀）
第2ブロック委員長	稲 谷 哲 也	（ 緑 ）
第2ブロック副委員長	上 田 健 二	（友 渕）
第3ブロック委員長	脇 田 将 明	（大 正 北）
第3ブロック副委員長	堀 川 崇	（住 之 江）
第4ブロック委員長	今 垣 清 彦	（田 島）
第4ブロック副委員長	坂 本 政 隆	（中 野）

令和 7 年度 教育研究会予算

（令和 7 年 5 月21日 現在）

1. 歳 入

（単位：円）

2. 歳 出

（単位：円）

項 目	令和 7 年度 予 算 額
会 費	2, 0 0 0, 0 0 0 (見込み)
補 助 金	※2 0 0, 0 0 0
繰 越 金	2, 5 1 2, 5 6 7
預 金 利 息	0
合 計	4, 7 1 2, 5 6 7

項 目	令和 7 年度 予 算 額
本 部 事 業 費	2, 4 2 2, 0 6 7
研究部事業費	1, 8 1 0, 5 0 0
ブロック事業費	4 8 0, 0 0 0
合 計	4, 7 1 2, 5 6 7

※日本教育公務員弘済会研究助成金